

博物館だより

第38号



あみだにょらいさんそんりやうぞう
▲阿弥陀如来三尊立像（広島県 安国寺 重要文化財）

善光寺式の阿弥陀三尊立像としては、最大の木造仏。中尊171cm、脇侍131cm、光背を含めると315cm。特別展「古代・中世人の祈り」に展示します。

「古代・中世人の祈り —善光寺信仰と北信濃—」

期間 1997年4月26日(土)～6月1日(日)

会場 長野市立博物館 特別展示室

主催 長野市立博物館・善光寺展実行委員会

今年は、7年に一度の善光寺御開帳が開かれます。これに合わせて、当館では古代・中世の善光寺信仰と北信濃に関する展示を企画しました。

善光寺へ、今日のように全国から善男善女が訪れるようになったのは、中世における仏教思想の変化にあると考えられます。善光寺は、一光三尊阿弥陀如来(善光寺如来)への信仰を中心に成り立っていますが、多様な信仰形態が結びついた構造は、いまだ未解明な部分が少なくありません。

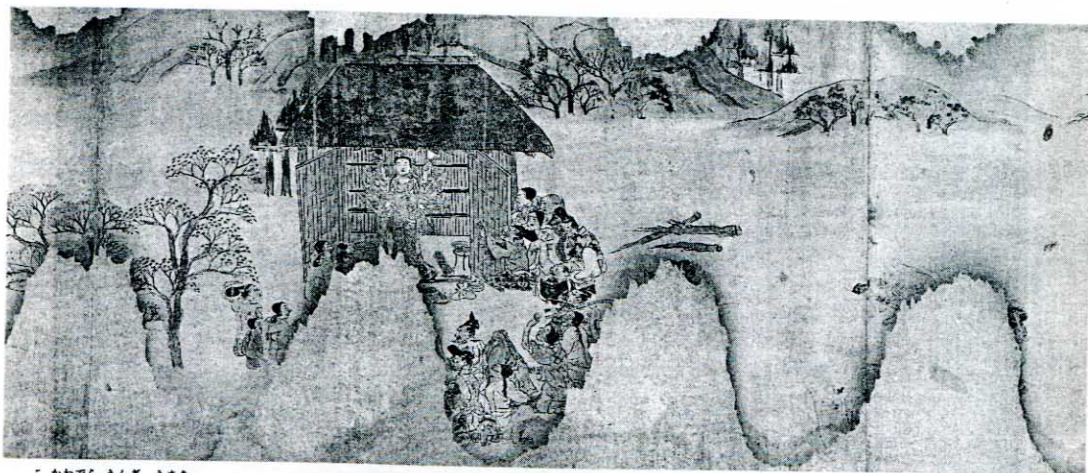
そこで今回の展示では、善光寺がどのような背景のもとに成立し、いかに全国的な霊場となり、中世を代表する寺院となったかを全国的な視野から浮かび上がらせたいと思います。

また、北信濃には古代以来多くの仏教美術の名宝を持ちながら、あまり公の目に触れる機会がありませんでした。長野市では、今回の展示を市制100周年記念事業と位置づけ、こうした郷土のすばらしい文化財を公開し、その理解と継承に役立てばと考えています。

当館での善光寺に関する展示は、1985年の『善光寺信仰』展について2回目となります。今回はこれまでの善光寺信仰の研究を整理し、考古、歴史、民俗、文学、美術、地理学など各分野の新しい視点で、古代・中世の善光寺信仰、北信濃の人びとの祈りに大胆に迫ってみたいと思います。

資料は国宝1件、重要文化財14件、重要有形民俗文化財1件、県指定文化財4件を含む68件、136点を展示する予定です。

(文責 降幡浩樹)



こかわでら さんざん さま

▲粉河寺縁起絵巻(和歌山県 粉河寺 国宝)

粉河寺の本尊・千手観音像造立の奇跡と、霊験による河内国長者の娘の病気平癒の物語を描く。平安時代後期の絵巻で、民衆への観音信仰の広まりを示す。図は、紀伊国粉河の山中の草堂そうどうで獅師大伴孔子古一家が千手観音を発見し、驚喜するところ。

■主な展示品

国	宝	粉河寺縁起絵巻	和歌山県	粉河寺
重要文化財		扶桑略記	愛知県	宝生院
//		古本説話集	東京国立博物館	
//		観音菩薩立像	長野市	清水寺
//		阿弥陀三尊立像	広島県	安国寺
//		阿弥陀三尊立像	埼玉県	向徳寺
//		善光寺如来絵伝	愛知県	本證寺
//		聖徳太子孝養立像	大阪府	道明寺
//		善光寺造営図	善光寺	大勧進
重要有形民俗文化財		奥美濃人生儀礼用具	岐阜県	明宝村
県指定文化財		阿弥陀如来立像	茨城県	浄真寺
//		善光寺如来絵伝	愛知県	満性寺
		毘沙門天立像	長野市	北村組 首浴会
		不動明王立像	長野市	不動寺
				……など

★特別展記念講演会

会場 当館2階会議室

・5月11日(日) 午後2時

岩鼻みちあき通明氏(山形大学助教授)

「善光寺参詣曼荼羅を読む」

・5月25日(日) 午後2時

吉原ひろと浩人氏(早稲田大学助教授)

「『善光寺如来絵伝』の世界」

★特別展講座

会場 当館2階会議室

5月18日(日) 午後2時

原田和彦

(松代藩文化施設管理事務所学芸員・本展実行委員)

「善光寺信仰と北信濃」

★展示説明会

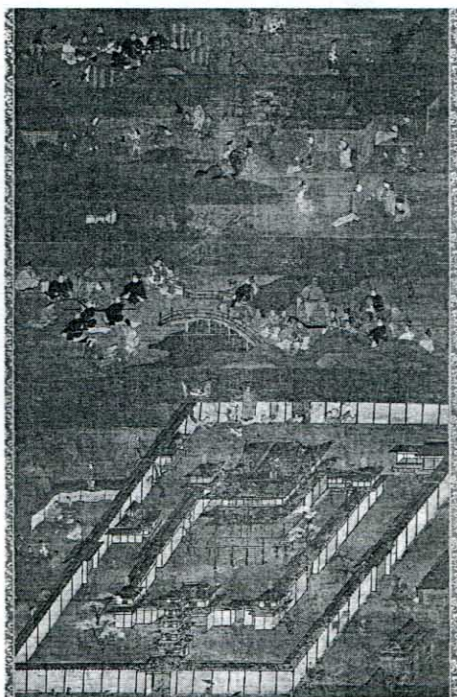
会場 当館特別展示室

5月4日(日) 午後2時

降幡浩樹(当館学芸員)



▲毘沙門天立像(長野市真島町 北村組自治会)
腹部のでっぱりと兜の形が特徴で、平安時代の作と思われる。



▲善光寺如来絵伝 第4幅
(愛知県 本證寺 重要文化財)

善光寺信仰の布教には、こうした絵伝による縁起の絵解きが行われたと思われる。

生まれ変わる プラネタリウム

◇最後の投影◇

1996年12月1日…この日は開館以来15年間活躍してきたプラネタリウム(GX-AT)の最後の投影日になりました。3回だけの投影でしたが、いままで行ったことのないすべて生解説。内容も3回ともすべて違う投影です。この時期としては異例ともいえる200人ものお客さんに見守られながら、プラネタリウムはしっかり最後の投影を終えました。



最後の投影

◇改修工事始まる◇

翌2日にはプラネタリウムの改修工事が始まり、椅子の撤去をかわきりに、プラネタリウム本体も取り外されていきました。撤去はいつの時も速いもので、プラネタリウム室はあっという間にスクリーンと、それを支えるコンクリートの柱及び壁だけになりました。

12月4日からはいよいよ新しいプラネタリウムを迎える準備段階に入り、スクリーンの再塗装、床のコンクリート打ち、壁、ギャラリー（補助投影機を設置する棚）の取り付け、床のカーペット張り、電気・配線工事等、急ピッチですが、すべて丁寧に工事が進んでいきました。



解体される旧プラネタリウム



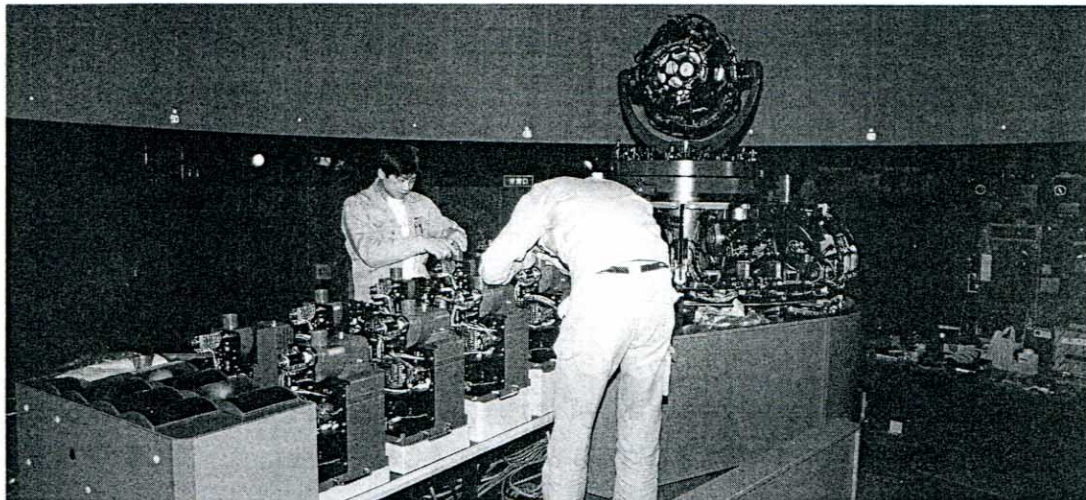
内装工事も完成間近

◇新プラネタリウムの搬入◇

1997年1月23日、新しいプラネタリウム「ウラノス」が搬入されてきました。部品ごとに一つ一つ木枠に組まれた状態で、3トントラック3台にめいっぱい積まれてきました。こんなにたくさんの物がどうやってプラネタリウムの中に収まるのだろうかと思っていましたが、木枠がはずされ、次々とプラネタリウム内に入れられると、あの荷物はどこへ行ってしまったのだろうと狐につままれた感じがするほど、コンパクトに収まっていきました。

◇調整◇

プラネタリウムが組み上がると、今までのプラネタリウムに比べるとその形状の違いに驚かされました。本体はとにかく小さく、直径わずか60cm、プラネタリウムのトレードマークのような南北に突き出した角（惑星投影機）がありません。惑星投影機のない物はプラネタリウムとは呼べません。では、惑星投影機はどこへ行ったかということ、本体の前の方の床に置かれています。つまり、本体と惑星投影機は分離し、以前からスクリーンがよく見えないと不評だった惑星投影機がなくなって、本体は一球式になりました。これで、お客さんからの星空の死角はずいぶん減ることでしょう。小さくはなりましたが、今までにないたくさんの新しい機能がいっぱい詰まっている「ウラノス」は現在、4月26日の投影開始に向けて、メーカーの専門家によって細かな調整が行われています。



搬入後調整が進む新プラネタリウム

新プラネタリウムはこう変わる

① 宇宙型プラネタリウム

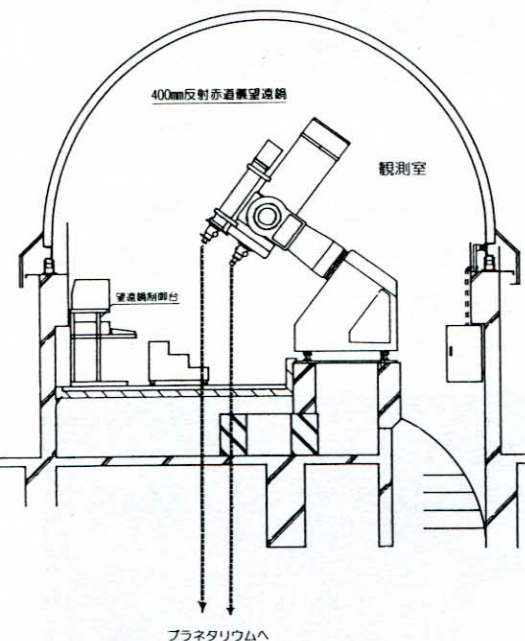
従来は地球という視点を離れることができませんでしたが、新プラネタリウム「ウラノス」は、惑星投影機は独自の動きができるために、宇宙空間に飛び出したイメージの投影ができるようになります。また、たくさんの恒星(10,000個)や、本体の高速回転が可能なこと、そして様々な補助投影機が演出を支援します。

② ビデオプロジェクターによる動く映像

スライド中心の従来からの演出から、2台のビデオプロジェクターによる動く映像を番組に組み入れることができるようになります。

③ 屋上(ドーム)の望遠鏡からの生の映像を提供

プラネタリウムの改修にあわせて、プラネタリウムに映像を送るため、屋上天体観測ドームの望遠鏡も口径15cm屈折望遠鏡から口径40cmの反射望遠鏡に更新しました。その望遠鏡とプラネタリウ



ムのビデオプロジェクターを結び、望遠鏡で撮影した映像はもちろん、リアルタイムで太陽や星の映像をお届けします。

大きな彗星で話題を振りまいているハール・ボップ彗星の映像もできるだけたくさんご覧いただきたいと思います。

④ 星や星座もたっぷり

プラネタリウムの最大の役割である星や星座も今まで以上にご案内します。従来生解説投影として「星空の散歩道」を月2回お送りしてきましたが、新しいプラネタリウムでは生解説半分、番組投影を半分という形でお送りします。したがって、毎回生解説で「今宵の星座」をご案内しますので、十分お楽しみください。また、常時、博物館エントランスホールにて太陽などの映像を映し出しています。

⑤ プラネタリウムシアター

毎月第4土曜日の夕方、プラネタリウムはシアターに変身。

ビデオプロジェクターによる映像をお楽しみいただきながら、宇宙へ夢を馳せてもらうためプラネタリウム映画会をおこないます。大きな迫力ある画面をお楽しみください。 (文責 大蔵 満)

オープンの御案内

●日 時 平成9年4月26日(土)

●投影番組 「ガリレオが見たもの」

イタリアのガリレオ・ガリレイは16世紀から17世紀の中世ヨーロッパという科学の暗黒時代に生き、真実を真実として訴え、権力の固まりだった教会の間違った教えに立ち向かっていきました。

20世紀終わり、ガリレオの名前をうけついだ木星探査機「ガリレオ」もまた、真実を見るために今、木星へ行き、数々の貴重なデータを送り始めています。「二人のガリレオ」が見たもの……それは何だったのでしょうか。

●投影開始時刻

土曜日(第2、第4を除く)	—	12時30分	14時	15時30分
第2、第4土曜日、日曜日、祝休日	11時	12時30分	14時	15時30分

4月26日～5月5日までは休館日(4月28日(月)、4月30日(水))を除いて毎日投影し、この期間は入館無料です。投影開始時刻はいずれも日曜日と同じです。

それ以後の投影日…土曜日、日曜日、祝休日

平成8年度の活動より

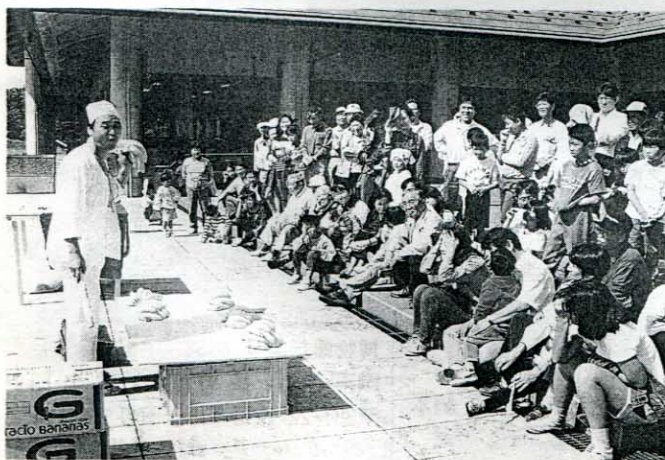


◀七夕まつり(8月4日)

「スターウィーク」(星に親しむ週間)に合わせて、プラネタリウムでは、「^{こと}箏とフルーツ」・「アンデス音楽」の生コンサートや親子CDコンサート、また屋外ではパロケット飛ばし大会などを行いました。満天の星空のもとでのコンサートは人々の心をゆさぶったようです。

▶プラネタリウム演劇(8月24日)

「夜天童話」と題して、市内の高校生や大学生たち15人ほどがプラネタリウムで演劇公演(友の会主催)を行いました。これまでとは違った、「演劇」という媒体で情報発信ができるという新たな可能性を私たちに教えてくれました。



◀博物館まつり(9月22日～23日)

博物館の開館記念日に合わせて、記念講演会、大道芸の実演(ガマの油売り・バナナのたたき売り・南京玉すだれ)やロービーコンサート、また友の会同好会の作品展示や即売会などを行いました。両日とも施設を無料開放し、約2,500人の方々にご来館いただきました。

